

NEWSLETTER

NOV. 2025

ISSUES #7

当社の旬な話題をご紹介する
大気社ニュースレター
発行元：株式会社大気社 経営企画部
広報・サステナビリティ推進課
連絡先：mailmast@taikisha.co.jp

早田ひなさん
日本生命所属
卓球選手

長田雅士
代表取締役社長
株式会社大気社

世界に挑む、決意と覚悟 グローバルに挑戦し続ける力とは

一流アスリート×大気社
スペシャル対談
前編

数々の国際大会で輝かしい実績を残し、世界を舞台に挑戦し続ける卓球選手・早田ひなさん。一方、今年5月に長期経営計画「10年プラン2035」を発表し、グローバル市場での成長を掲げる大気社（社長・長田雅士）。異なるフィールドで挑戦し続ける両者に共通するのは「世界と真摯に向き合う姿勢」。

本号ではスペシャル対談の前編として、“世界に挑む決意と覚悟”をテーマにその考え方について聞きました。

中学2年での海外デビュー 世界への挑戦が始まる

—世界に挑戦し始めたのはいつ頃ですか？

早田ひなさん：中学2年生のある日、チームの監督から「今から世界で戦い始めないともう手遅れになるよ」と言われたことが、私の人生を大きく動かしました。母と二人で初めての海外遠征に挑んだその瞬間から、私の“世界への挑戦”が始まりました。母は卓球未経験ながらもベンチに入り、何も分からない手探りの中で試合に臨んだことを今でも覚えています。同期の選手たちの存在は心の支えとなり、異国の地での食事や洗濯、文化の違いに戸惑いながらも少しずつ前に進んでいきました。最近ではナイジェリア遠征で、時間感覚

や人々の陽気さなど日本とはまったく異なる文化に触れ、改めて世界の広さを実感しました。苦労は数えきれないほどありますが、不思議とそうした困難の中にこそ、人生の面白さや充実感を感じます。

大気社・長田：私が入社した約40年前、当社は海外展開を進めるお客様に伴走する形で、本格的に海外進出を開始しました。当時、日本企業の海外進出は大きな挑戦であり、未知の領域に踏み出す勇気が求められました。私たちは「オープンチャレンジ＆クイックレスポンス」というスローガンを掲げ、スピード感と柔軟性を持って積極的に取り組んできました。現在では海外拠点も次第に増え、社員が自ら手を挙げて挑戦する風土が根付きつつあります。もは

や海外に行くこと自体よりも、現地で何を成し遂げてどう価値を創出するかが重要です。

海外で感じる、 日の丸を背負う責任

—— そうした海外経験は、ご自身の成長にどう影響していますか？

早田ひなさん：現地の選手やスタッフとの交流を通じて、言葉の壁を越えて心を通わせたいと思うようになり、“英語を話したい”という気持ちが海外遠征を重ねる中で自然と強くなりました。また、海外遠征では日本代表として日の丸を背負う責任が常に伴います。試合だけでなく、日常の言動も若い世代の模範となることを意識し、一流アスリートとしての在り方を常に考えています。世界で戦うことは自分自身の成長だけでなく、多くの人の思いや期待を背負っていることを実感する機会もあります。覚悟を持って臨むことの重要性を日々感じています。

大気社・長田：私たちもかつては海外赴任を通じて異文化と向き合い、現地との架け橋となる“小さな外交



早田ひな（はやたひな）：167cmの長身から放たれるパワフルなフォアドライブを武器に、国内外の大会で活躍。2024年パリオリンピックでは女子シングルスで銅メダル、団体では銀メダルを獲得。2025年全日本選手権ではシングルス3連覇を達成。現在、日本生命に所属し、Tリーグ2025-2026シーズンからは新主将を務める。福岡県出身、25歳。

官”的つもりで海外に赴任していました。早田さんのお話にあった「日の丸を背負う責任」は、当時の私たちの心構えと重なります。改めて覚悟の大切さを実感しました。

準備と適応力—— グローバルで成果を出すために

—— 海外での苦労をどう乗り越えてきましたか？

早田ひなさん：どんな環境でも受け入れる力が重要です。会場の湿度、食事、時差など、遠征ごとに異なる条件に適応しなければなりません。たとえば、海外では雨の日でも体育館の扉が開けっぱなしになっていることがあります。湿気によってラバーが滑り、ボールが落ちることがあります。こうした状況に備え、日本でも雨の日に体育館の扉を開けて練習するなど、事前に環境を想定して準備しています。また、食習慣が合わない国や日本食が手に入らない地域では、パフォーマンスを維持するため食事面でも工夫が必要です。ヨーロッパやアメリカとの時差も大きく

生活リズムの調整も欠かせません。大会ごとに体育館の広さや卓球台、ボールの種類も異なります。あらゆる変化を前向きに受け入れ、最善のパフォーマンスを発揮できるように、予測できる要素には事前対策を、予測できない事態には柔軟に対応する姿勢を日々の練習で常に心がけています。

大気社・長田：ビジネスも同じです。思った通りにいかないことがほとんどですよね。予見できるリスクだけでなく、予見できることにも備え、動搖しない力が求められます。日頃から自己鍛錬を積み、準備することが大切です。（次号に続く）

▶次号予告（12月号）
「エンジニアリング」をテーマ
に、技術を磨く力と心の整え方に
ついて語り合います。



長田雅士（おさだまさし）：1983年に大気社入社。カナダ、アメリカ、メキシコ駐在などを経て2009年には取締役兼常務執行役員、2015年には大気社シンガポール社長などを歴任し、2023年に代表取締役社長に就任。福岡県出身、66歳。